

## 2025年度 市立函館高等学校 シラバス

教科	科目	単位数	年次・コース	教科担任			
数学	数学C	2	3年次	竹内 巧			
選択するときの条件	数学Ⅰ及び数学Ⅱを履修。3年次での選択科目となります。						
使用教科書	数研出版 「高等学校 数学C」	使用副教材	数研出版「4プロセス 数学C 完成ノート」 数研出版「チャート式基礎からの数学Ⅲ+C」				
科目の目標			道徳教育のねらい				
ベクトル、複素数平面、平面上の曲線について理解させる。基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。習熟度編成の授業により、きめ細かな指導を行う。日常の課題、小テスト、単元テスト等の取り組みを徹底し、基礎基本の定着を図ると共に、応用問題に取り組む姿勢を養う。			数学を活用して考えたり判断したりしようとする態度や、工夫して生活や学習をしようとする態度を育てること、また、生徒が事象を数理的に考察し、道筋を立てて考え、表現をする能力を高めることで、道徳的判断力を養う。				
学習活動内容		育てたい6つの力(資質・能力)					
		1	2	3	4	5	6
		主体的 学習力	基礎力	思考・ 分析力	発信・ 表現力	自己認知 ・協働力	計画 実行力
1	数学C第1章平面上のベクトル(ベクトルとその演算)	◎	◎	○	○	○	○
2	数学C第1章平面上のベクトル(ベクトルと平面図形)	◎	◎	○	○	○	○
3	数学C第2章空間のベクトル	◎	◎	○	○	○	○
4	数学C第3章複素数平面	◎	◎	○	○	○	○
5	数学C第4章式と曲線(2次曲線)	◎	◎	○	○	○	○
6	数学C第4章式と曲線(媒介変数表示と極座標)	◎	◎	○	○	○	○
7	応用演習	◎	○	◎			
8	グループワーク			◎	◎	◎	
9	課題提出	◎	○	○			◎
10	考査	◎	◎	◎	◎		
11							
12							
13							
14							
15							
16							
17							
18							
19							
20							
21							
22							
23							
24							
評価の観点	知識・技能	思考 判断 表現		主体的に学ぶ態度			
	数学的活動を通して、各単元において、事象を数学的に考察し、処理する仕方や推論の技能を身につけ、的確に問題を解決できる。	数学的活動を通して、各単元における数学的な見方や考え方を身につけ、事象を数学的に捉え、論理的に考察するとともに、過程を振り返り多面的・発展的に考察し、表現できる。		数学的活動を通して、各単元における考え方に興味をもつとともに、数学的な見方や考え方のよさを認識し、それらを事象の考察に活用しようとする。			
評価の方法	次の3観点において、各資料をもとに総合的に評価し、5段階の評定をする。また、各観点については、到達度により総合的に評価し、A・B・Cの3段階で評価する。						
	A: 目標に対する到達度が70%~100%		B: 目標に対する到達度が45%~69%		C: 目標に対する到達度が0%~44%		
	教科・科目における各観点	授業での取組	課題への取組	定期考査	単元テスト		
	知識・技能	◎	◎	◎	◎		
	思考・判断・表現	○	◎	◎	◎		
主体的に学ぶ態度	◎	◎	○	○			

# 数学C 授業計画

授 業 計 画					実施状況			
月 (時数)	単元・考査等 (配当時数)	学習のねらい	学習内容 (配当時間)	単元 実施	実施反省			
前         期	4	第1章 平面上のベクトル	ベクトルの基本的な概念について理解し、その有用性を認識するとともに、事象の考察に活用できるようにする。	第1節 ベクトルとその演算 第2節 ベクトルと平面図形				
	5	第2章 空間のベクトル 単元テスト						
	6	第3章 複素数平面						
	7	単元テスト	複素数平面について理解し、それらを事象の考察に活用できるようにする。	前         期				
	8							
	9							
	10	第4章 式と曲線					平面上の曲線がいろいろな式で表されることについて理解し、それらを事象の考察に活用できるようにする。	第1節 2次曲線 第2節 媒介変数表示と極座標
	11	後期中間考査						
	12	応用演習					数学Cの内容全体について、国公立大学2次試験、記述試験に対応できる実力養成のため、応用問題演習に取り組む。	後         期